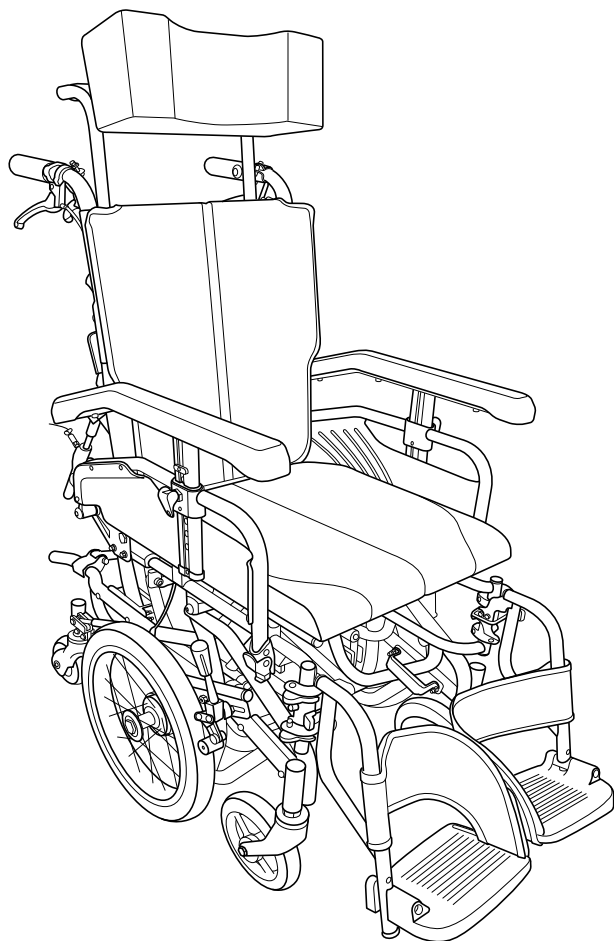


SKR-8

取扱説明書



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

使用者の身体の状態・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。

目次

はじめにご確認ください	2
使用目的・特徴	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	6
使いかた	7
ブレーキのかけかた	7
車いすの開きかた・たたみかた	8
シートの取り付け・取り外し	11
乗り降りのしかた	12
アームサポートの跳ね上げ	13
フット・レッグサポートの開閉・取り外し	14
各部の調節のしかた	15
アームサポートの高さ調節	15
フットサポートの高さ調節	16
シートの角度調節（ティルト機構）	17
バックサポートの角度調節 （リクライニング機構）	18
ヘッドサポートの取り外け・取り外し	19
ヘッドサポートの高さ・位置・角度の調節	19
バックサポートの張り具合調節	21
使用上のご注意	22
保守・点検	22
お手入れ・保管について	22
航空機への搭載について	23
走行上のご注意	23
段差介助のしかた	24
困った時には	25
仕様	27
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

はじめにご確認ください

本製品ご購入後、はじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

- 車いす本体 1台
- 背アウターシート 1ケ
- 座クッション 1ケ
- フット・レッグサポート 左右各1ケ
- ヘッドサポート 1ケ
- 工具（スパナ 2ケ 六角レンチ5mm・4mm・3mm 各1ケ）
- 取扱説明書（本書）
- 保証書

ご使用前の準備は、下記のページをお読みください

- P.8 車いすの開きかた・たたみかた
- P.11 シートの取り付けかた
- P.14 フット・レッグサポートの取り付け・取り外し
- P.19 ヘッドサポートの取り付け・取り外し

使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗して移動と、休息を目的としています。

身体支持部のティルト機構とリクライニング機構を装備した、介助者が操作する座位変換形介助用手動車いすです。日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】



危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】



警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠ 危険



スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。



急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。



エスカレーター(車いす対応エスカレーターを除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)でのご使用は絶対に行わないでください。転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。



乗り降りの際は、フットサポートに乗らないでください。駆動輪(主輪)が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

⚠ 警告



本製品は構造上、走行時に旋回しやすいように設計されています。使用者が車いすを前進、後退させる際は、左右の手押しハンドルを両手でしっかりと握って、直進を保てるように操作してください。



乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていると車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。



制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



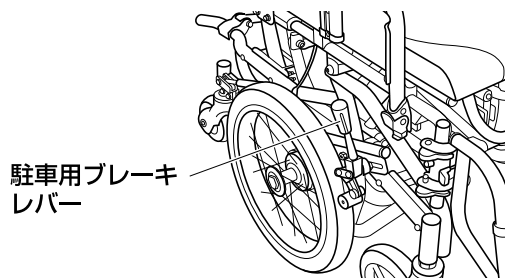
各部を調節する場合は平坦な場所で行ってください。



駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーやフレームが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。



前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方に転倒する恐れがあります。



車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。



走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒など事故につながる恐れがあります。



乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。



手押しハンドル、本体フレーム、ヘッドサポートおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

⚠ 警告

- 

アームサポート、フット・レッグサポート、ヘッドサポートを持って車いすを持ち上げないでください。
部品が外れて、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

走行中は、アームサポートの跳ね上げ、高さ調節、フット・レッグサポートの回転、ティルト・リクライニングの操作、ヘッドサポートの調節の操作等をしないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

アームサポートを跳ね上げた状態で走行しないでください。
使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

アームサポート戻した後は、アームサポートが確実に固定されたことを確認してください。
使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

フット・レッグサポートを回転させた状態で車いすの操作をしないでください。
フット・レッグサポートを取り外さず回転させたまま使用すると、駐車用ブレーキや障害物との接触などにより、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

フット・レッグサポートを戻した後は、フット・レッグサポートが確実に固定されたことを確認してください。
使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

アームサポートの跳ね上げ時およびフット・レッグサポートの回転時は、可動部に身体や衣服を引っ掛けたりはさんだりしないように注意してください。
けがをする恐れがあります。
- 

タイヤの摩耗に注意してください。
タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- 

乗り降りの際は、アームサポート、フット・レッグサポート、ヘッドサポートに身体や衣服を引っ掛けないように注意してください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。十分注意して使用してください。
- 

ティルト・リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。
使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていて、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。
- 

ティルト・リクライニング操作は必ず介助者が行ってください。
- 

乗り降りの際は、シートを水平の位置に戻してください。
- 

ティルト・リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

ティルト・リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

- 

段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。
車いすの破損や故障の原因となります。
- 

段差を乗り越える際は、十分に注意して操作してください。また、凹凸のある場所での使用および駐車はさけてください。
主輪が地面に接地せず、制動用ブレーキ・駐車用ブレーキが効かなくなる恐れがあります。
- 

最大体重(積載物も含む)は100kgです。体重制限を守って使用してください。

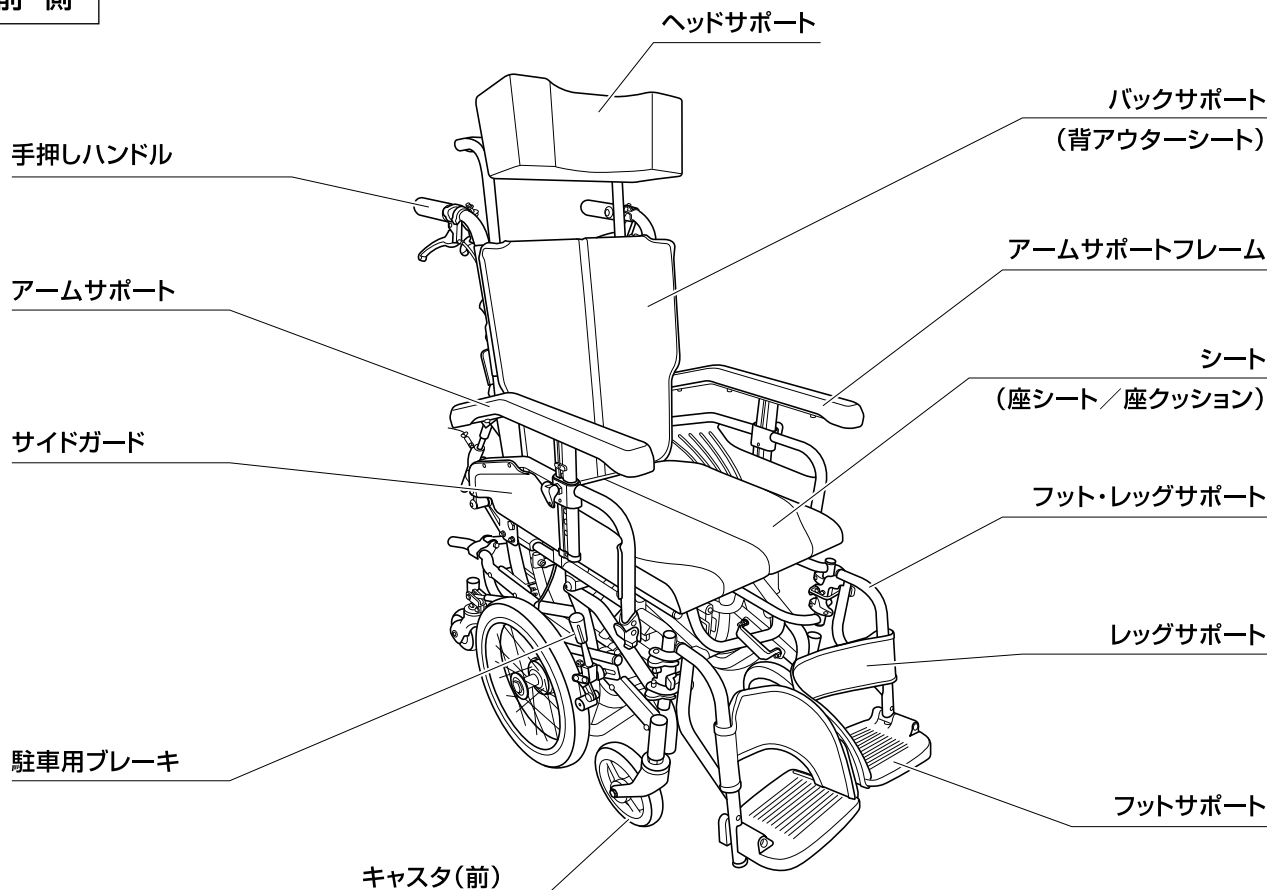
⚠ 注意

-  この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。
-  アームサポートの高さを調節した後は、必ずロックされたことを確認してください。
-  操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
-  フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
-  使用する前に駆動輪（主輪）・キャスタ・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
ゆるんだ状態で使用すると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。
-  背折れジョイント、アームサポート、フット・レッグサポート、ヘッドサポートなどの可動部に指や身体をはさまないように注意してください。
-  使用者の体格や座位姿勢によってサイドガードが外側にひろがった状態で使用しないでください。
車いすの破損や故障の原因となります。
-  シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。
-  バックサポートの面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなりフレームの変型の原因になります。
-  フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによってシート生地に毛羽が付着することがあります。衣服用ブラシなどで付着した毛羽を取り除くか、市販の静電気防止スプレーを使用するなどしてください。
-  車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。
-  ティルト・リクライニングさせた状態でアームサポートを跳ね上げないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
-  シートパイプやアームサポートのパイプを握ったまま車いすの開閉操作を絶対に行わないでください。
手指や爪、衣服が巻き込まれてけがをする恐れがあります。
-  走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
-  アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。
アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。
-  使用者の乗車中に、背折れジョイントの操作を絶対に行わないでください。
背折れジョイントのヒンジ部分で手や腕をはさんだり、使用者が後方に転倒する恐れがあります。
-  走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。
-  フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。
けがをする恐れがあります。
-  フット・レッグサポートのすき間に手や足を入れないでください。
けがをする恐れがあります。
-  車輪・キャスタを他のサイズや種類に変更しないでください。
-  暖房器具にタイヤを近づけないでください。
タイヤの表面が溶けたり破損する場合があります。破損した場合は乗車をやめて必ず修理してください。
-  シャワーや入浴には使用しないでください。
水分や湿気などにより故障する恐れがあります。
-  ティルト・リクライニングさせた状態の背シートには腰かけないでください。
転倒によるけがや、車いすの破損の原因になります。
-  介助者は、ティルト・リクライニング操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルにかかりますのでしっかり支えてください。

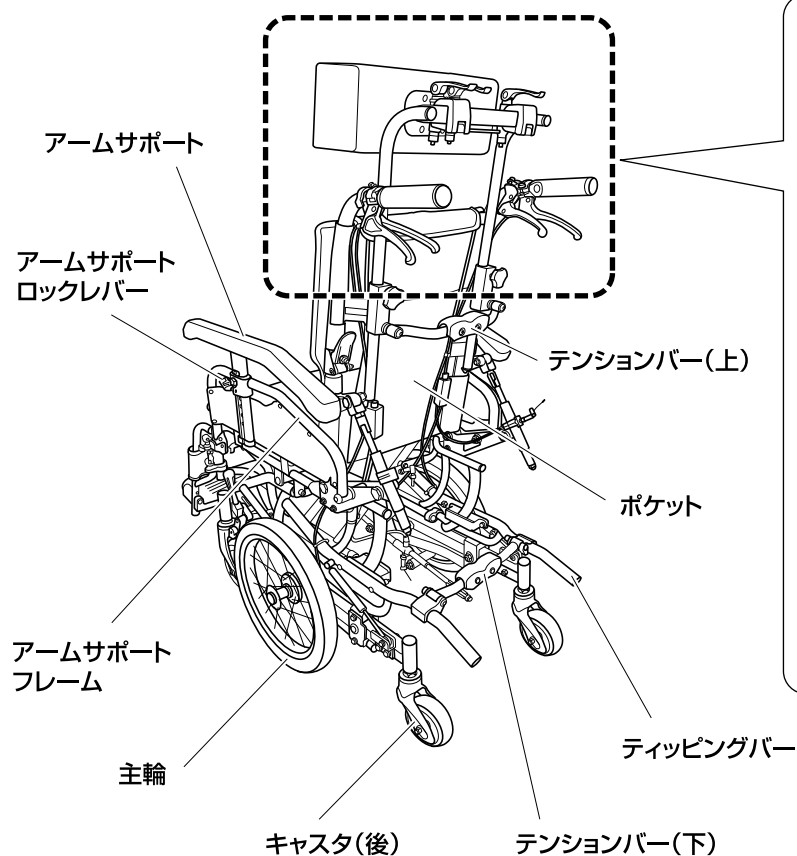


各部のなまえ

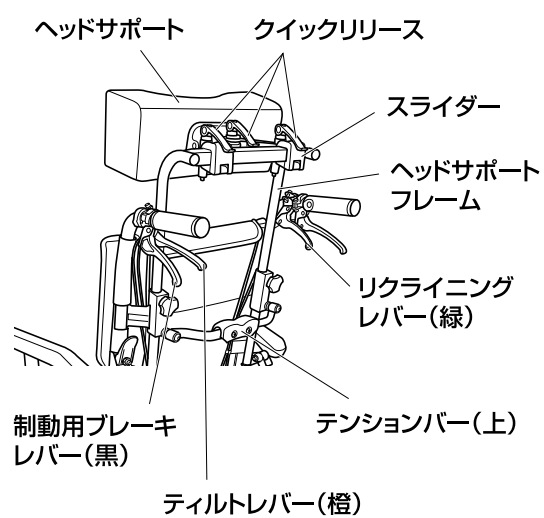
前 側



後 側



ヘッドサポート／手押しハンドル部



使いかた

ブレーキのかけかた

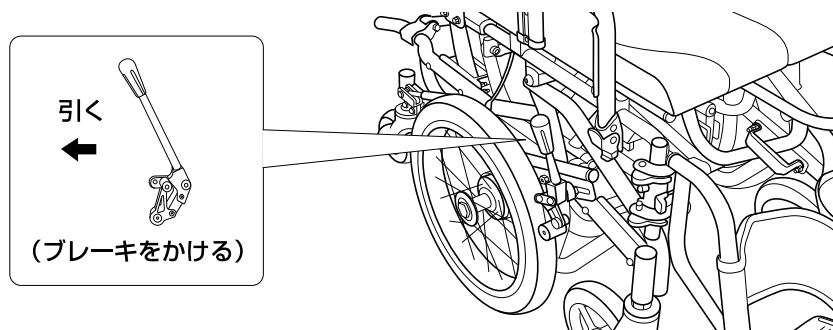
⚠ 警告

- ・ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていると車いすが動き出し、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。
- ・ 駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- ・ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・ タイヤの摩耗や劣化に注意してください。タイヤが摩耗や劣化すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒など事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者が、左右の駐車用ブレーキレバーを後方に引いてかけます。

駐車用ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



● 制動用ブレーキのかけかた

⚠ 危険

- ・ スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・ 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。
- ・ 雨の日など路面、タイヤが濡れている状態では、本来の制動力を得られないことがあります。十分に注意したうえで操作してください。

⚠ 警告

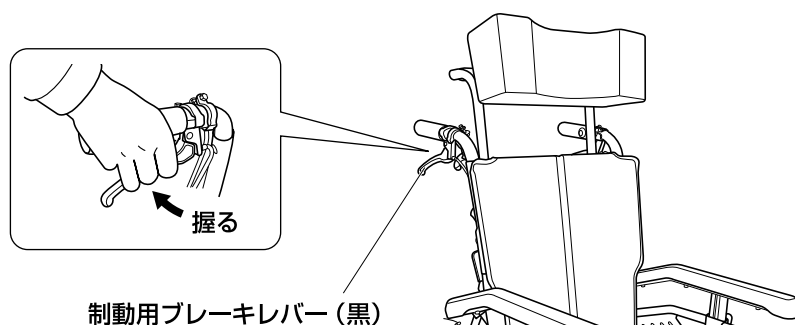
- ・ 制動用ブレーキは、介助者がレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。(交換の目安：1年に一度)

介助者が、左右の手押しハンドル下側の黒色の制動用ブレーキレバーを左右同時に握ってかけます。

ブレーキレバーを放すと解除されます。



車いすの開きかた・たたみかた

△注意

- ・シートパイプやアームサポートのパイプを握ったまま車いすの開閉操作を絶対に行わないでください。手指や爪、衣服が巻き込まれてけがをする恐れがあります。
- ・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。
- ・背折れジョイントを上げる際は、開口部にシートを巻き込まないよう注意してください。ジョイントが完全にロックされない恐れがあります。また、シートの破損につながる恐れがあります。
- ・後方へ進行や旋回をするときに、背折れジョイントが障害物に当たらないよう注意してください。背折れジョイントのロックが外れて後方へ姿勢をくずす恐れがあります。

● 開きかた

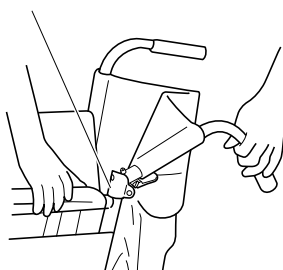
1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 手押しハンドルを両側とも上げます。

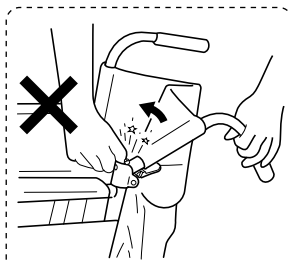
* 背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。

* 開口部に手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。

背折れジョイント



手押しハンドルを
両側とも上げる



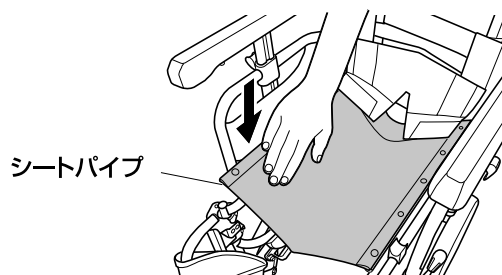
手をはさむおそれあり

3 手押しハンドルを両側とも軽く持ち、車いす本体の後方部を浮かせながら左右に開きます。

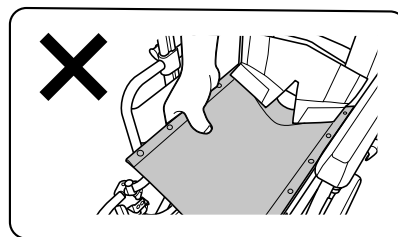
4 シートパイプの両端を手のひらで押し下げます。

* シートパイプを握らないでください。

* シートパイプの中央付近を押し、先端は押さないでください。

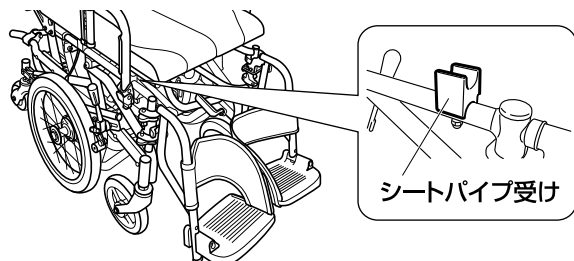


シートパイプ



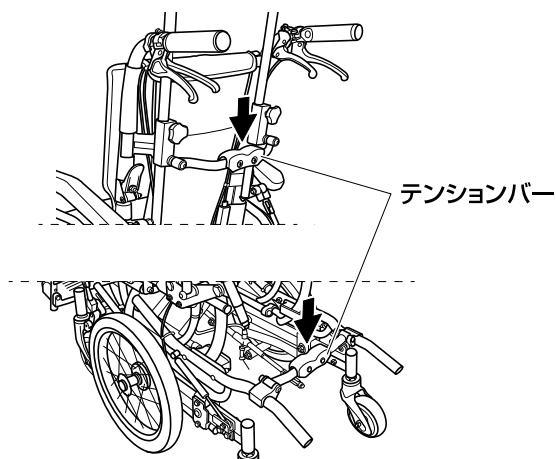
5 シートパイプ受けにシートパイプがしっかりと はまっていることを確認します。

*しっかりとはまっていない場合は、シートパイプの中央付近を押してはめてください。
押すときは、シートパイプの先端を押さないでください。フレームが変形する恐れがあります。



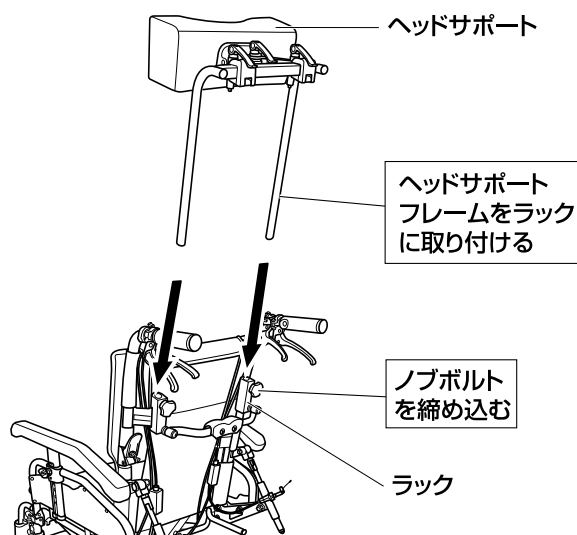
* シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。
* 左右のフレームがねじれていると、シートパイプがはめにくい場合があります。そのときは、ティルトレバーを操作して左右のフレームのねじれを直してください。

6 テンションバー(2ヶ所)の中央を持ち、ロックする まで押し下げます。



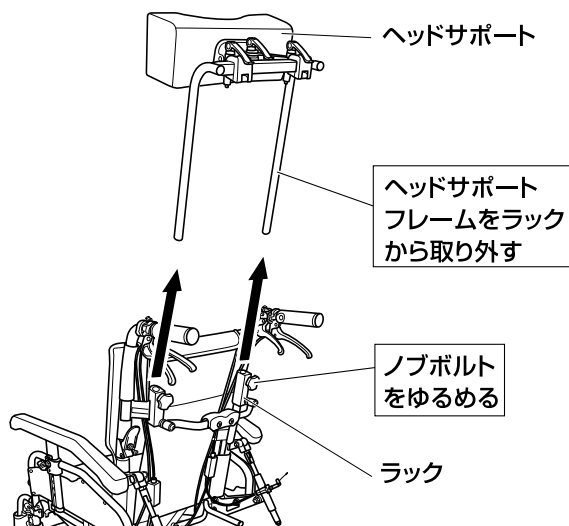
7 背アウターシートと座クッションを取り付けます。 (P.11「シートの取り付け・取り外し」参照)

8 ヘッドサポートを取り付け、ノブボルトを締めて固定 します。 (P.19「ヘッドサポートの取り付け・取り外し」参照)

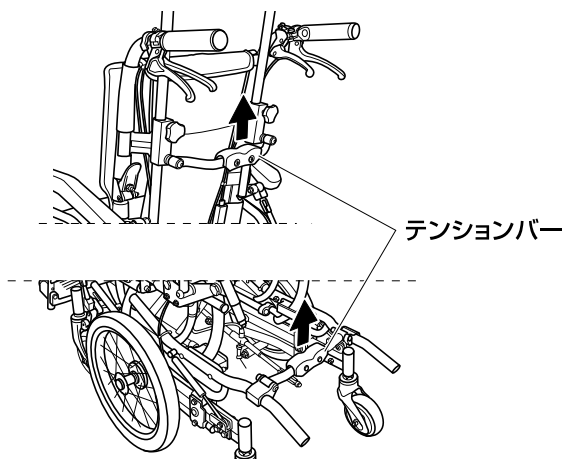


● たたみかた

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 リクライニングをしている場合は、バックサポートを起こします。
(P.18「バックサポートの角度調節(リクライニング機構)」参照)
- 3 ティルトをしている場合は、座面を水平に戻します。
(P.17「シートの角度調節(ティルト機能)」参照)
- 4 ノブボルトをゆるめて、ヘッドサポートを取り外します。
(P.19「ヘッドサポートの取り付け・取り外し」参照)

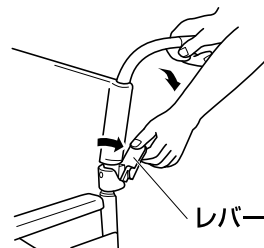


- 5 テンションバー(2ヶ所)を上を持ち上げ、少し折り曲げます。

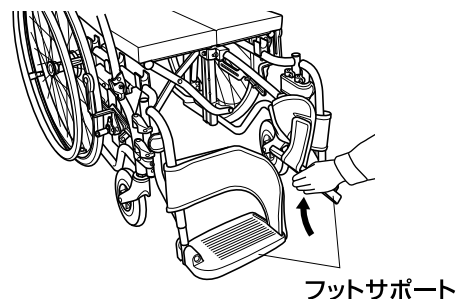


- 6 背アウターシートと座クッションを取り外します。
(P.11「シートの取り付け・取り外し」参照)

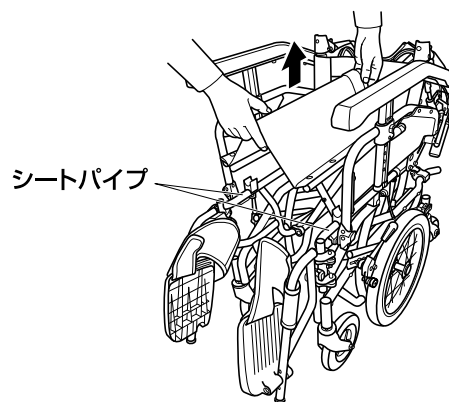
- 7 レバーを引いて、手押しハンドルを両側とも下げます。



- 8 フットサポートを両側とも上げます。



- 9 インナーシートを持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。



- 10 左右のアームサポートを外側から内側に押し、座シートを折りたたみます。
* 車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。

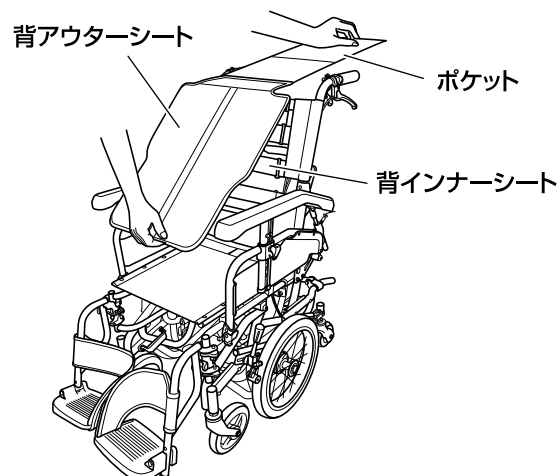
シートの取り付け・取り外し

△注意

- ・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・使用者が乗車していない状態で作業してください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れがついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

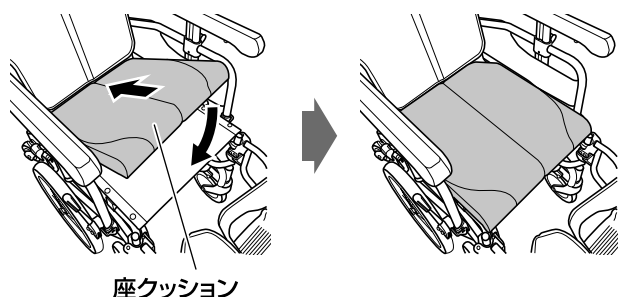
● 背アウターシートの取り付けかた

- 1 背アウターシートのポケット側を後ろにして、折り目部分が上にくるように車いす本体をあわせませす。
- 2 背アウターシートと背インナーシートの面ファスナーを貼り合わせませす。

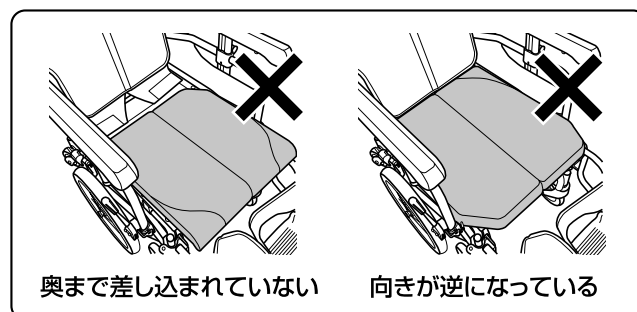


● 座クッションの取り付けかた

座クッションの裏面に面ファスナーをある方を後ろ側にして、車いす本体の座インナーシート表面の面ファスナーと貼り合わせませす。

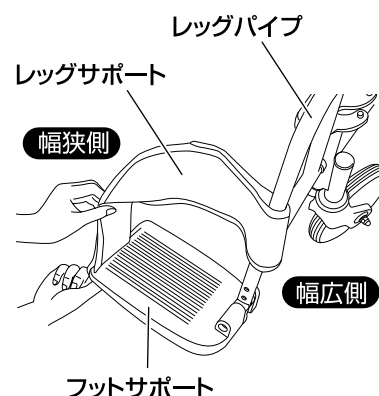


座クッション



● レッグサポートの取り付けかた

- 1 レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレッグパイプに巻き付けて、面ファスナーを貼り合わせませす。
- 2 レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後どちらかの穴に差し込みませす。
- 3 穴に通したレッグサポートの端を折り返して面ファスナーを貼り合わせませす。
- 4 反対側も同様の作業を行います。



● 取り外しかた

「取り付けかた」と逆の要領で行ってください。

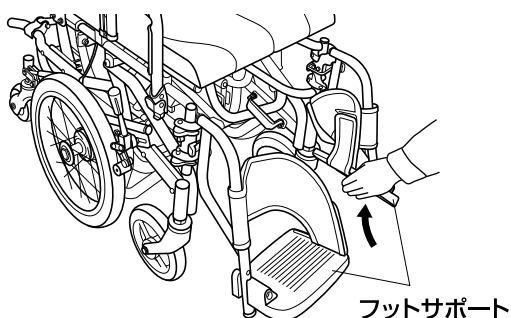
乗り降りのしかた

⚠ 警告

- ・ ティルトさせた状態で乗り降りしないでください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・ 乗り降りの際は、座面を水平の位置に戻して、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。
- ・ 車いすに乗り移る際は、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・ 上げたフットサポートが足に当たらないよう注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

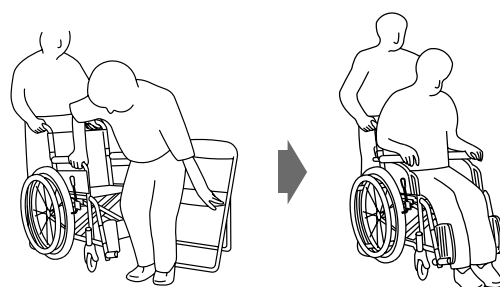
● 乗りかた

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 リクライニングをしている場合は、バックサポートを起こします。
(P.18「バックサポートの角度調節(リクライニング機構)」参照)
- 3 ティルトをしている場合は、座面を水平に戻します。
(P.17「シートの角度調節(ティルト機能)」参照)
- 4 フットサポートを両側とも上げます。
* フットサポートの上には乗らないでください。
転倒し、けがをする恐れがあります。
* 上げたフットサポートが足に当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。



- 5 必要に応じて、「アームサポートの跳ね上げ」(P.13参照)、「アームサポートの高さ調節」(P.15参照)、「フット・レッグサポートの開閉・取り外し」(P.14参照)を行います。

- 6 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。

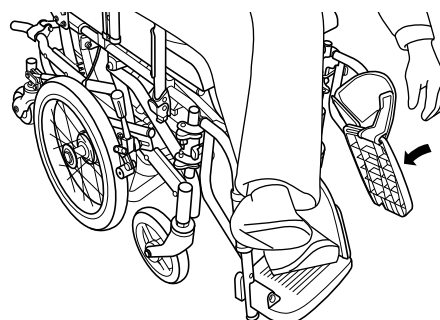


車いすを保持し
腰を浮かせる

ゆっくり乗り移る

- 7 「アームサポートの跳ね上げ」、「アームサポートの高さ調節」、「フット・レッグサポートの開閉・取り外し」、を行っていた場合は、元に戻します。

- 8 フットサポートを下げて両足の乗せます。



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

アームサポートの跳ね上げ

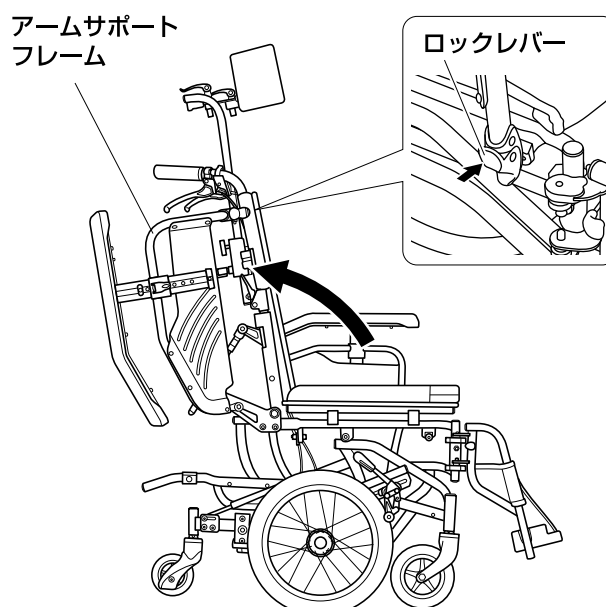
アームサポートをワンタッチで後方へ跳ね上げることができます。
ベッドと車いすの間の移乗などがスムーズに行えます。

⚠ 警告	・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて、事故やけがにつながる恐れがあります。
⚠ 注意	・アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

● 跳ね上げかた

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 リクライニングをしている場合は、バックサポートを起こします。
(P.18「バックサポートの角度調節(リクライニング機構機能)」参照)
- 3 ティルトをしている場合は、座面を水平に戻します。
(P.17「シートの角度調節(ティルト機能)」参照)
- 4 ロックレバーを押しながら、アームサポートフレームを持ち上げて後方へ跳ね上げます。

*アームサポートを上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。フレームが変形し故障の原因となります。



● 戻しかた

⚠ 警告	・アームサポートを下ろすときは、身体や衣服をはさまないように注意してください。
-------------	---

アームサポートを下ろし、元の位置に戻します。

*アームサポートを下ろした後は、アームサポートが確実に固定されたことを確認してください。

⚠ 警告	・アームサポートを跳ね上げた状態で走行しないでください。使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。
-------------	---

フット・レッグサポートの開閉・取り外し

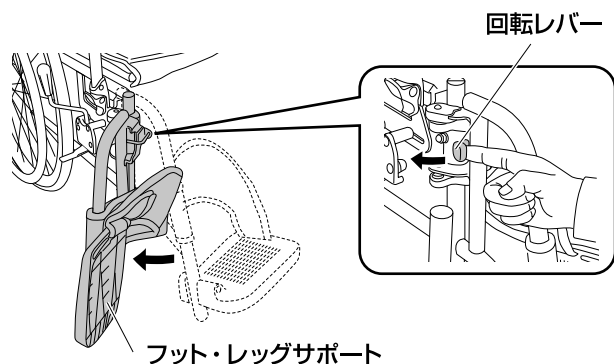
フット・レッグサポートをワンタッチで開閉させたり、取り外すことができます。車いすへの乗り降りの際は、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

⚠ 警告	・ フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 ・ フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて、事故やけがにつながる恐れがあります。 ・ 乗り降りの際は、フット・レッグサポートに身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。 ・ フット・レッグサポートの開閉時、フット・レッグサポートに身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。 ・ フット・レッグサポートを開いた状態で、車いすの操作をしないでください。 ・ フット・レッグサポートを戻した後は、フット・レッグサポートが確実に固定されたことを確認してください。
⚠ 注意	・ フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、使用者の足をフットサポートから降ろした状態で行ってください。

● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。

* フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。
部品が変形して故障の原因となります。



● 閉じかた

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。

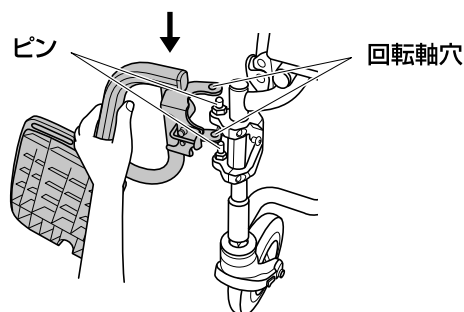
* フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。
* フット・レッグサポートを閉じた後は、フット・レッグサポートが確実に固定されたことを確認してください。

● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

1 車体フレーム側の回転軸穴にフット・レッグサポート側のピンを合わせて垂直に上からはめ込みます。



2 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。

* フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。
* フット・レッグサポートを閉じた後は、フット・レッグサポートが確実に固定されたことを確認してください。

各部の調節のしかた

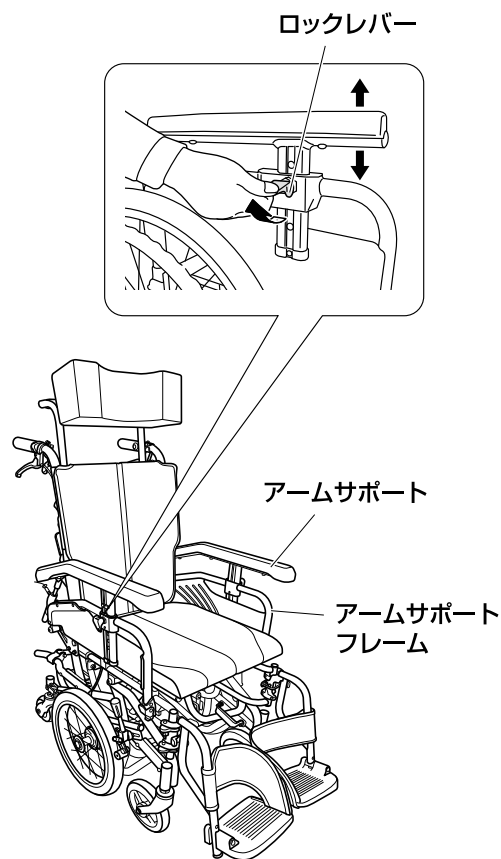
アームサポートの高さ調節

アームサポートの高さを6段階に調節することができます。
使用者の体格やお使いのクッションに合わせて高さを調節してください。

⚠ 警告	・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。 ・高さ調節をした後は、アームサポートが確実に固定されたことを確認してください。 ・高さ調節の際は、アームサポートフレームとアームサポートの間に指をはさまないように注意してください。けがをする恐れがあります。
⚠ 注意	・アームサポートの左右を入れ替えたり、前後の向きを入れ替えて使用しないでください。

- 1** 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2** アームサポートを支えながら、ロックレバーを引いてロックを解除します。
- 3** アームサポートを上下に動かして、高さを調節します。
- 4** 希望の高さに調節したら、ロックレバーを押し下げます。
- 5** アームサポートを軽く上下に動かして、ロックレバーがいっぱいまで下がり、アームサポートが確実に固定されたことを確認してください。

*反対側も同様に調節してください。



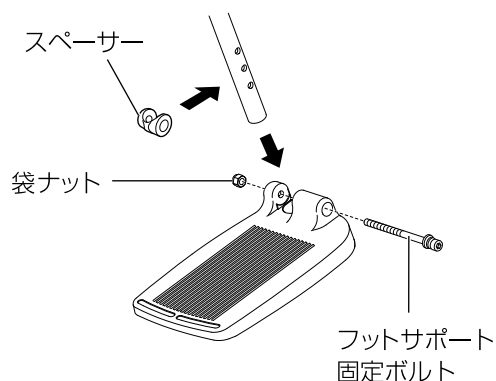
フットサポートの高さ調節

フットサポートは20mm間隔で3段階の高さに調節することができます。

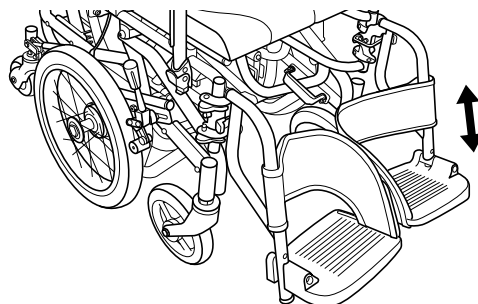
使用工具：5mm六角レンチ

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 フットサポートを下ろした状態で、フットサポート固定ボルトを外します。



3 脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節します。



4 希望の高さの穴を決めたら、固定ボルトを差し込み、袋ナットと共に締め付けて固定します。

* 反対側も同様に調節してください。

フットサポート調節のコツ

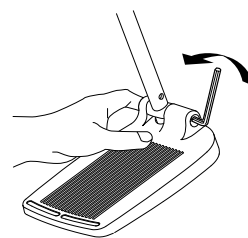
取り外すとき

1 六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。反対側からナットが飛び出してきたら、袋ナットを指で押さえておきます。



注意

ボルトが袋ナット側に突き出ているときは、袋ナットを指で押さえているとけがをすることがありますのでご注意ください。



2 フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナットを取り外します。

座面の角度調節（ティルト機構）



△注意

- ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかり支えてください。
- ・ティルト操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

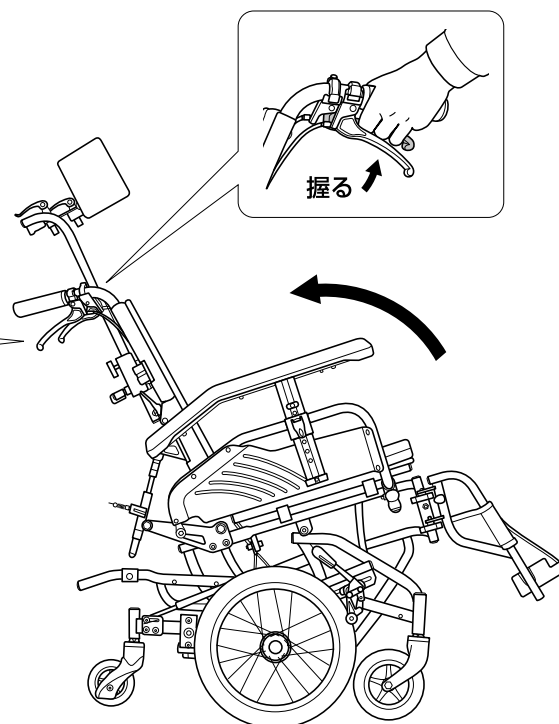
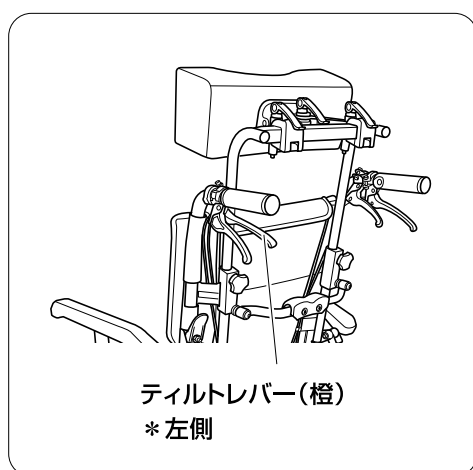
● 倒しかた

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 手押しハンドル下側にあるレバーを握ります。

（マークが付いたオレンジ色のグリップです。）

座面の角度が0～20度の範囲で調節できます。



3 希望の角度が決まったら、その位置でレバーを放します。

座面の角度が固定されます。

4 座面とバックサポートにガタつきがないことを確認します。

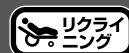
● 起こしかた

「倒しかた」と逆の要領で行ってください。

* 操作はゆっくり行ってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんので注意してください。

* 使用者の体格や状態、シートおよびバックサポートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。その場合は座面（ティルト）、バックサポート（リクライニング）の角度を戻し、車いすを安定させた状態で使用してください。

バックサポートの角度調節（リクライニング機構）



△注意

- ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかり支えてください。
- ・リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないと、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

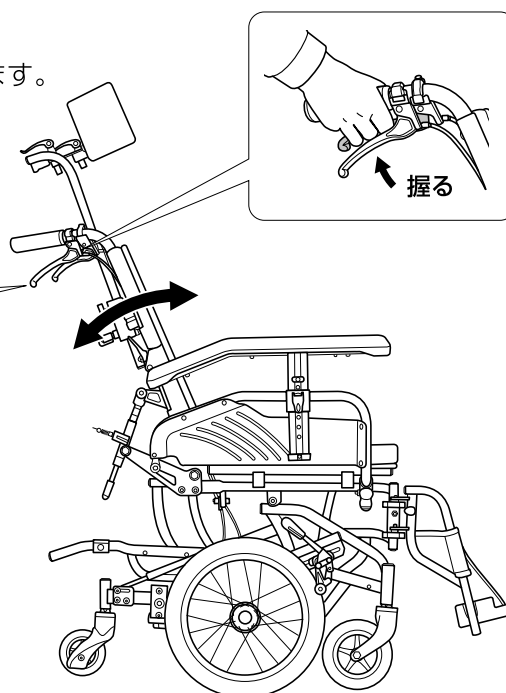
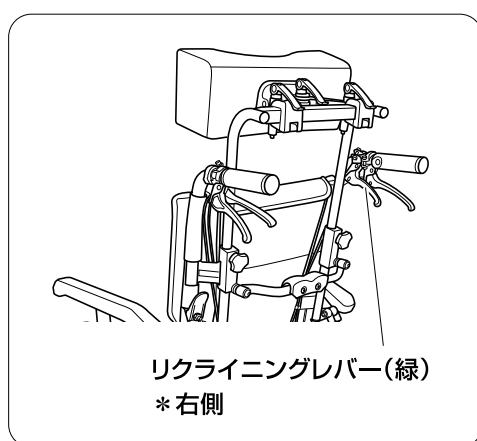
● 倒しかた

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 右側の手押しハンドル下側にあるレバーを握ります。

（マークが付いた緑色のグリップです。）

バックサポートの角度が90～110度の範囲で調節できます。



3 希望の角度が決まったら、その位置でレバーを放します。

バックサポートの角度が固定されます。

4 座面とバックサポートにガタつきがないことを確認します。

● 起こしかた

「倒しかた」と逆の要領で行ってください。

* 操作はゆっくり行ってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんので注意してください。

* 使用者の体格や状態、シートおよびバックサポートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。その場合は座面（ティルト）、バックサポート（リクライニング）の角度を戻し、車いすを安定させた状態で使用してください。

ヘッドサポートの取り付け・取り外し

⚠ 警告

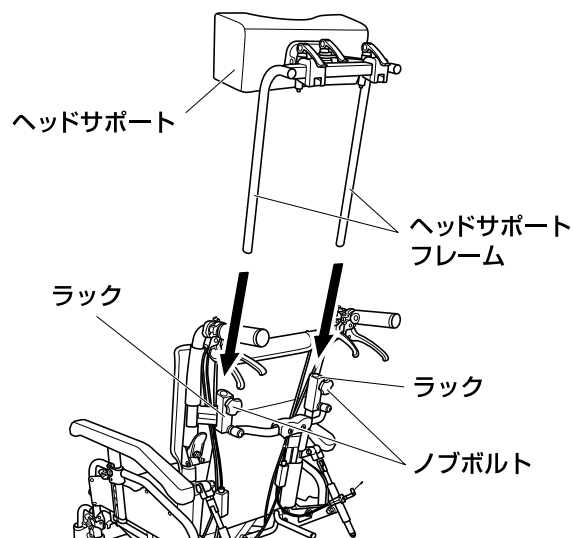
・ 使用時、ヘッドサポートは必ず車いすに取り付けてください。取り付けずに使用すると正しくティルト・リクライニングができず、車いすの破損や故障の原因となります。

⚠ 注意

・ ヘッドサポートの取り付け・取り外しは、使用者が乗車していない状態で行ってください。

● 取り付けかた

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 車いすを開いた状態にします。
(P.8「車いすの開きかた」参照)
- 3 左右のラックに、ヘッドサポートフレームを差し込みます。
* ノブボルトが当たって入らない場合は、ノブボルトをゆるめてください。
- 4 左右のノブボルトを締め付けてヘッドサポートを固定します。
* ヘッドサポートにがたつきがなく、確実に固定されていることを確認してください。



● 取り外しかた

取り付けと逆の要領でノブボルトをゆるめて、ヘッドサポートを上を持ち上げてラックから取り外します。

ヘッドサポートの高さ・位置・角度の調節

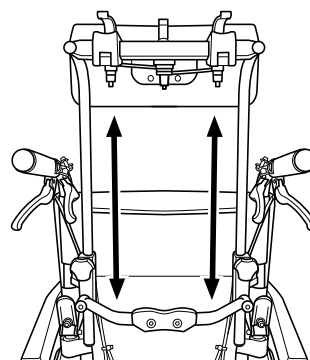
使用者の体や状態に合わせて、ヘッドサポートを適切な高さ、位置、角度になるように調節してください。

⚠ 警告

・ ヘッドサポートの各部に指をはさまないように十分注意してください。けがをする恐れがあります。
・ ヘッドサポートの調節は、使用者の頭部の状態に十分注意しながら行ってください。
・ ヘッドサポートを調節した後は、ヘッドサポートが確実に固定されたことを確認してください。

● ヘッドサポートの高さ調節

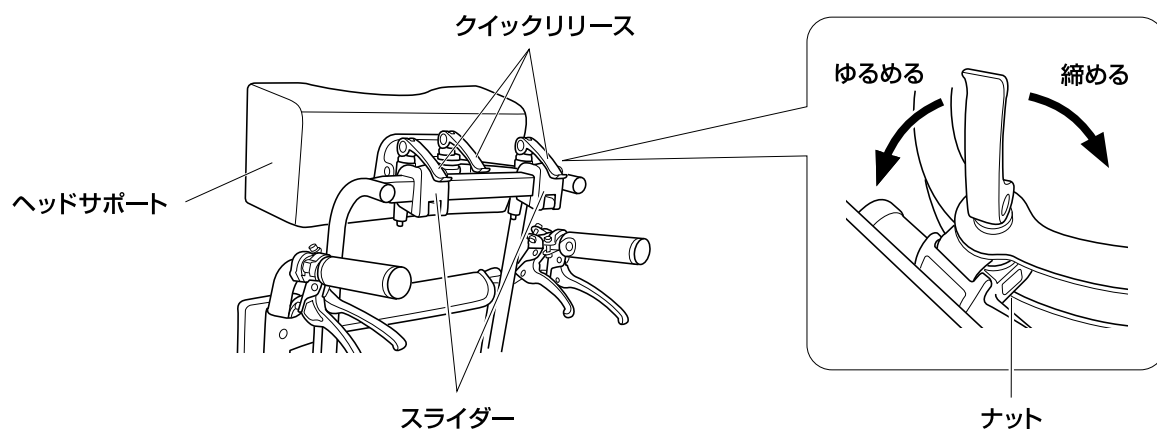
- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 左右のノブボルトをゆるめて、ヘッドサポートの高さを調節します。
- 3 希望の高さが決まったら、左右のノブボルトを締め付けてヘッドサポートを固定します。



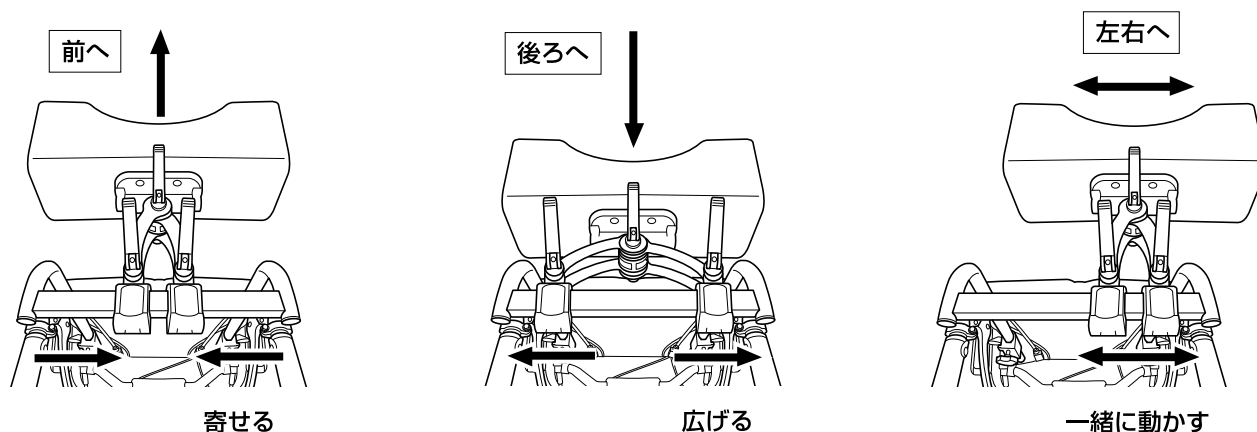
● ヘッドサポートの位置・角度の調節

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

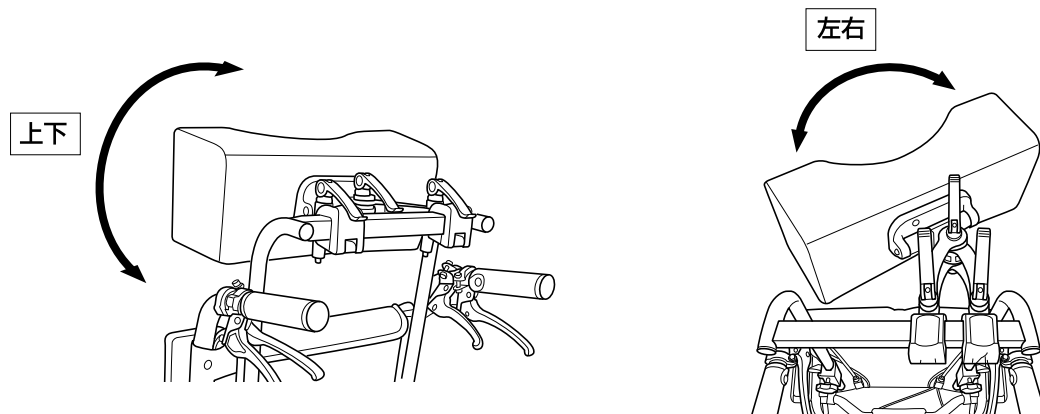
2 3つすべてのクイックリリースを起こしてゆるめます。



3 左右のスライダーを動かして、ヘッドサポートの前後左右を調節します。



4 枕の上下左右の角度を変えて、希望の位置になるように合わせます。



5 希望の位置が決まったら、3つすべてのクイックリリースを倒して、スライダーを締めこみます。

* クイックリリースレバーによるクランプ力の調節は、レバーの反対側にあるナットを締める、もしくはゆるめることで調節できます。

バックサポートの張り具合調節

バックサポートにはテンション式背シートを装備しています。テンション式背シートの張り具合を適切に調節することにより、バックサポートが使用者の体にフィットし、疲れにくく安定した姿勢を保つことができます。

*調節は使用者を乗せた状態で行ってください。

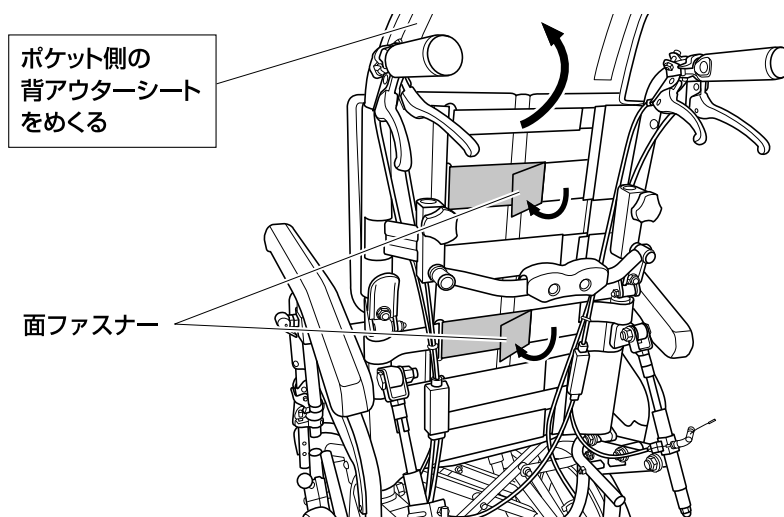
*アウターシートを外して調節を行うと、効果を確認しやすくなります。

△注意	・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。 ・面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなりフレームの変形の原因になります。
------------	---

バックサポートの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 ポケット側の背アウターシートをめくり上げます。



3 面ファスナーをはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。

*手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認ください。

*必要に応じて、ヒップシートの張り具合も同様に調節します。

4 ポケット側の背アウターシートを元に戻します。

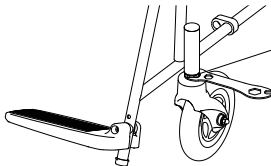
*過度の調節（ゆるめすぎ、締めすぎ）はかえって姿勢を崩すことになりますので、十分注意して行ってください。

使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

*修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠警告	キャストの旋回軸やキャスト・駆動輪（主輪）・ブレーキ・各調節部等は定期的に点検してください。 ゆるんでいるときは増し締めをしてください。	
-----	---	---

- ・車いすは熱気、湿気に弱いいため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。

● 駐車用ブレーキの作動確認

ブレーキレバーを操作し、ブレーキがかかることを確認してください。

● 各調節部分が固定されていることの確認

各調節部分をチェックし、確実に固定されていることを確認してください。

● 消耗品、交換部品の確認

⚠注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突など事故につながる恐れがあります。
-----	--

- ・それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へご連絡ください。
- ・ハイポリマータイヤは、表面に溝がない状態やひび割れがみられる状態で使用を続けると、タイヤ内部に水分が浸食して加水分解を起こし、タイヤの劣化が早まります。お早めに交換してください。

消耗品・交換部品

品 名	交 換 時 期
駆動輪（主輪）	タイヤの表面に溝がなくなったとき。タイヤにひび割れなどが見られる場合。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。 しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆びが発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取り、よく乾かしてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を拭き取り、よく乾かしてください。

● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取り、よく乾かしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等が付いた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- ・フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによってシート生地に毛羽が付着することがあります。衣服用ブラシなどで付着した毛羽を取り除くか、市販の静電気防止スプレーを使用するなどしてください。

● アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

- ・樹脂部品の汚れは、中性洗剤で落としてください。

△注意	・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。 ・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。
-----	--

● タイヤのお手入れ

- ・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取り、よく乾かしてください。

● 保管・収納について

- ・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・錆やタイヤのパンク、劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温が上がる場所、直射日光の当たる場所には保管しないでください。

△注意	折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。
-----	---

航空機への搭載について

本製品を使用して航空機へ搭載する場合は、本製品にガススプリング(ガスダンパー)が使用されていることを必ず事前に搭乗予定の航空会社へ連絡して、航空会社の指示に従ってください。

走行上のご注意

△注意	本製品は構造上、走行時に旋回しやすいように設計されています。使用者が車いすを前進、後退させる際は、左右の手押しハンドルを両手でしっかりと握って、直進を保てるように操作してください。
-----	---

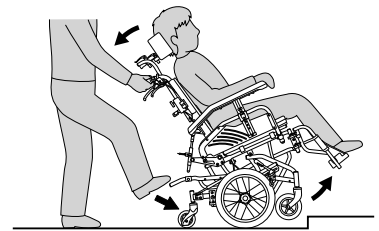
- ・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう十分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャストのはさみ込みには十分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認したうえで、停車せず通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には十分注意してください。
- ・クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車椅子を走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。十分注意してご利用ください。
- ・エスカレーター(車いす対応エスカレーターは除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)での使用は、絶対に行わないでください。
- ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

段差介助のしかた

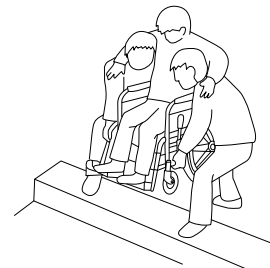
⚠ 警告	・ 持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。背折れジョイント、アームサポート、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。 ・ ティルト・リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
⚠ 注意	・ 段差を乗り越える際は、十分に注意して操作してください。また、凹凸のある場所での使用および駐車はさけてください。主輪が地面に接地せず、制動用ブレーキ・駐車用ブレーキが効かなくなる恐れがあります。 ・ 段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。車いすの破損や故障の原因となります。 ・ キャスタ(後)の上に足を乗せないでください。

● 段の上がりかた

- 1 足元のティッピングバーを踏み込み、前方に押し出しながら、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャストを段の上にあげます。
- 2 主輪を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。



- * 無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。
- * 使用者が車いすに乗ったまま持ち上げるときは、2人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持ち上げてください。



● 段の下りかた

手押しハンドルで車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。

- * 無理な力による段差を下りることは、フレームの破損につながります。
- * 段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。車いすの破損や故障の原因となります。

困った時には

車いすをご使用されていて、「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症 状	確認点	対 処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。 車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 傾斜面の低い側にあたる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	キャストの回転に左右差がありませんか。キャスト軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	搭乗した状態でキャスト（前・後）、駆動輪（主輪）の計6輪がきちんと接地していますか。	
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪（主輪）のタイヤは摩耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押さえが駆動輪（主輪）にきちんと当たっていますか。駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
	タイヤ押さえに変形や摩耗はありませんか。	
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。	本体や車輪とオプション品、アクセサリなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するアクセサリなどは、車輪など回転する箇所と干渉しないようにしてください。
	可動部分の錆び・消耗・汚れ・油汚れなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	

症 状	確認点	対 処
車いすが開かない。	バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポートの張り具合を調節してください。
	テンションバーが折れ曲がったままになっていませんか。	テンションバーをロックするまで押し下げてください。
	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取りまわしを修正してください。 改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
車いすがたためない。	フットサポートを降ろしたままにしていませんか。	フットサポートを上へ上げてから、車いすをたたんでください。
	テンションバーを折り曲げていますか。	テンションバーを折り曲げてから、車いすをたたんでください。
	ヘッドサポートを取り付けたままにしていませんか。	ヘッドサポートを取り外してから、車いすをたたんでください。
リクライニング(ティルト)の動きが悪い。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取りまわしを修正してください。 改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ヘッドサポートが取り付けられていますか。	ヘッドサポートを取りつけてください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
キャストが空回りする。	前後左右のいずれか、または複数のキャストが地面から浮いていませんか。	平坦な場所でティルトレバーを握ってください。 ※ティルト角度を操作する必要はありません。
ヘッドサポートの枕が固定されない。	クイックリリースレバーのナットがゆるんでいませんか。	クイックリリースレバーの反対側にあるナットを締めてください。
ヘッドサポートの枕の上下を調節しても、手を放すと枕が下に傾く。	枕を固定しているクランプのボルトがゆるんでいませんか。	クランプのボルトを増し締めしてください。

仕様

	機種名
	SKR-8
フレーム材料	アルミ
シート材料	ポリエステル、ナイロン
アームサポートタイプ	開閉式（ウイング）
アームサポート	ウレタン
サイドガード	ポリプロピレン
グリップ	PVC
バックサポート	テンション調整
背折れ	あり レバー式
フット・レッグサポートタイプ	開閉式（スイングアウト）
フットサポート	軽量
キャスト（前）	ソフトフォーミング
キャスト（後）	ソフトフォーミング
タイヤ	ハイポリマータイヤ
制動用ブレーキ	サーボブレーキ
ハンドリム	なし
駐車用ブレーキ	引き掛け式トルブブレーキ

単位mm

測定項目	機種名
	SKR-8
駆動輪（主輪）径（inch）	14
キャスト径（前/後）（inch）	6/4
前座高（※1）	500（460）
後座高（※1）	500（460）
シート奥行	400
シート幅（※2）	400（360）
バックサポート高（※1）	440（480）
フットサポート・シート間距離（※1）	340/360/380（300/320/340）
アームサポート高（※1）	220/240/260/280/300/320（260/280/300/320/340/360）
全高（※3）	1060～1330
全幅	500
全長	980
折りたたみ全高	735
折りたたみ全幅	320
折りたたみ全長（※4）	740（965）
重量（kg）	24.2

※1 （ ）内は座クッションを外した時のサイズです。

※2 アームパイプ内々の幅です。（ ）内は座シートの幅です。

※3 ヘッドサポートを含めたサイズです。

※4 （ ）内はフット・レッグサポートを取り付けたままのサイズです。

静的安定性試験方法（弊社ではJIS T9201 10.1.2a方式によって試験を行っています。）

キャストが交換可能な場合、推奨するキャスト径は上記キャスト径になります。駆動輪・主輪のボルトとナットは、インチねじ（UNF 1/2-20山）仕様になります。

アフターサービス

- ・ 万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名と故障状況を連絡してください。
- ・ 保証期間内の修理につきましては、保証書の提示が必要です。

保 証

- ・ 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- ・ 保証期間終了後の修理につきましては、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。

本製品の廃棄につきましては、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元



株式会社 ミ キ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目 38 番 10 号